

自然学校における青年期の自然体験学習の実践事例とその意義

The program in Natuer school and Effectiveness of the experiencing nature for youth

野田 恵

NODA Megumi

東京農工大学（非常勤）

〔要約〕本研究は、自然学校が開催した自然体験プログラムに参加した大学生の自由記述アンケートをもとにその効果と意義を明らかにした。沢登りやアウトドア体験に挑戦した A 大学は、達成感や充実感に関連した記述が多く、炭焼きを行った B 大学は、自分の感情や価値観、これからの方向性などについて深く考える内省の記述がより強くみられた。また、さらに挑戦したいという意欲的な記述が、B 大学にはみられた。平野ら（2003）は、小中学生を対象とした長期キャンプの研究から「克服的要素を含んだ活動」が「生きる力」の育成に効果的であると結論しているが、本研究からは克服的要素の少ないプログラム B 大学参加者に、内省や挑戦への意欲などがみられた。自己を振り返る内省の意義を踏まえれば、青年期の経験学習においても克服的要素は達成感や充実感を与えるが重要な要素はそれだけではないことが示唆された。

〔キーワード〕自然体験、「経験から学ぶ力」、自然学校、大学生、青年期

1. はじめに

本稿では、自然学校で開催された大学生対象の自然体験プログラムについて、その効果と意義を論じる。

これまで自然体験学習は、幼少期は体験を通じて、関心や知識を身に付けていくという考え方を基礎にして、幼少期の環境教育に位置づけられることが多かった。例えば、阿部（2012）は発達段階に応じて重視すべき課題の重点を変えるべきと述べた後で「幼児期には直接体験による関係学習に多くの比重をかけるべきである」と述べている。

一方で、近接領域の理論に目を向けると、成人は自らの経験をもとに学習を展開するという「成人の学習論」（S.B メリアムら）や人は経験から 7 割以上学んでいくという経験学習論（松尾）がある。これらは、成人期の発達・成熟、キャリア形成における経験の意義を論じたものといえる。

このような成人の学習論やキャリア形成における経験学習論をふまえると、青年期にお

いて経験を積み、そこから学ぶことは幼少期とは異なる意義や発達への役割があると考えられる。幼少期とは異なり、青年はどのような自然体験を行うべきなのか、またそれはその後の人間的成熟にどのような役割を持つのか明らかにすることは、自然体験学習研究においても有用であると考えられる。

そこで本論では、まず自然学校が行ったふたつの自然体験学習プログラムを紹介したあと、それぞれの参加者に行った自由記述アンケートの分析と考察から、大学生の自然体験学習の特徴や効果を検証しその意義について論じたい。

2. 研究目的および方法

本稿で取り上げるプログラムは、グリーンウッド自然体験教育センターが、2015 年度に実施した A 大学・B 大学の 2 校のプログラムである。どちらの大学もゼミに所属している学生が参加するもので、プログラム内容はオーダーメイド形式であった。そのため、活動

内容は学生の専門性や課題を踏まえてゼミ教員と検討された内容になっている。具体的な両大学のプログラムは以下のとおりである。

A 大学は、参加学生が「体育」を専攻していることから、「自然の暮らし・遊びの中で体育の本質について考える」をテーマに実施された。柱となる活動は、キャンプ（野外での生活）と遊びの中で“自然”と身体を使う体験をする「魚とり」、大変なことを皆で乗り越える共通体験としての「沢登り」である。

B 大学では、「泰阜村から学ぶ「生き方合宿）」というテーマで実施された。「里山のシンプルな暮らしと、その暮らしを実践している人との関わりの中で、自然から学び、自己を見つめること、参加者同士の関係性をつくり、「生き方」を考えるきっかけとする」ことを意図して企画された。この企画には、4年生のゼミ生が参加する最後の合宿であることが踏まえられている。柱となる活動は炭焼きで、炭材を用意したり窯に詰める作業を行い、交代で火の皿をして炭焼きを行った。地域の方から炭焼きや地域の暮らしについての話を聞く機会や自然学校の活動を聞く機会も設けられた。

どちらも食事は食材が用意されており、参加者がメニューから考えて料理を行う形式であった。宿泊場所は、A 大学があまり整備されていない村内のキャンプ場、B 大学は自然学校の敷地内にある宿舎であった。A 大学は9月中旬、B 大学は10月中旬に、どちらも2泊3日のスケジュールで行われた。

A大学プログラム（9月中旬・2泊3日／キャンプ場泊／参加者17名）

| 1日目 | 2日目 | 3日目 |
|-----------------------|----------------------|---------------|
| | 起床 朝食準備 | 起床 朝食準備 |
| | 7:30 朝食 | 7:30 朝食 |
| | 9:00 シャワークライミング(沢登り) | 片付け |
| 13:00 ガイダンス | ※魚とり | 9:00 ワークショップ② |
| 15:00 キャンプ場へ | 11:30 昼食 | ” ③ |
| 自然の中で暮らす(キャンプ) | 14:30 撤収 | 12:00 昼食 |
| 16:00 夕食づくり・設営 | 15:10 自然学校着 | 解散 |
| ※夕食(カレー) | 五右衛門風呂焚き・夕食準備 | |
| 火を囲んで懇親会 | 夕食 | |
| 就寝 | 18:30 ワークショップ① | |
| | 就寝 | |

B大学プログラム（10月中旬・2泊3日／施設泊／参加者9名）

| 1日目 | 2日目 | 3日目 |
|--------------------|---|-------------------|
| | 起床・食事準備他 | 起床・食事準備他 |
| | 06:30 朝食 | 6:30 朝食 |
| | 08:00 「炭焼き」 | 8:00 ワークショップ |
| | 山出し(炭材の調達) | 11:00 ふりかえり・アンケート |
| | (一部は食事準備) | 12:00 昼食 |
| 13:00 ガイダンス | 12:00 昼食 | 解散 |
| 14:00 自然学校見学 | 13:00 「炭焼き」 | |
| 16:00 「窯出し」 | 窯詰め/火入れ(火の番2時間交代)/次回の材の準備、炭の整理など | |
| 窯掃除・材分け | | |
| 17:00 食事準備・風呂焚き | 17:00 食事準備・風呂焚き | |
| 18:30 夕食/入浴 | 18:30 夕食/入浴 | |
| ※囲炉裏で炭を使う | 懇親会・ワークショップ | |
| 20:00 講義(炭焼き) | | |
| 就寝 | 就寝 | |

3. 方法と分析枠組み

以上、内容が異なる二つの大学の自然体験プログラムであるが、それぞれの参加者はどのようなことを感じ、学ぶことが出来たのだろうか。このことを明らかにするために、参加者に自由記述式アンケート事前と事後に行った。事前アンケートは泰阜村に到着して活動を始める前に行い、事後アンケートはすべての活動が終了した段階で記入する時間を設けた。事前の質問項目と事後の質問項目は以下のとおりである。なお回答数は、A 大学 15名、B 大学 9名の計 24名であった。

事前アンケート質問項目

| |
|--|
| Q1.今の素直なきもちをお書きください。 |
| Q2.今の不安なことをお書きください。 |
| Q3.この合宿で楽しみなことは何ですか。 |
| Q4.この合宿で期待することをお書きください。 |
| ※個人が特定されるような形でデータを扱ったり公開することはありません。また合宿への影響はありません。 |

事後アンケート質問項目

| |
|-------------------------------------|
| Q1.今の素直なきもちをお書きください。 |
| Q2.この合宿中、特に印象に残ったことをお書きください。 |
| Q3.この合宿で学んだこと、感じたこと、気づいたことをお書きください。 |
| Q4.始まる前と今を比べて変わったと感ずることがあればお書きください。 |
| Q5.その他合宿の改善やご意見があればご自由にお書きください。 |

分析に当たっては、事後アンケートの記述を松尾(2012)の「経験から学ぶ力の3要素」を手がかりに読み解いた。松尾は、「経験から

学ぶ力」を3つの要素（ストレッチ、リフレクション、エンジョイメント）が互いにつながり合い循環するモデルとしてとらえる。

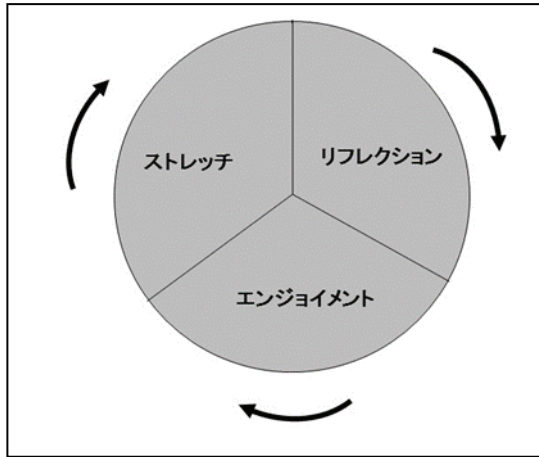


図 経験から学ぶ力（松尾，筆者一部改訂）

「ストレッチ」とは、「問題意識をもって高い目標や新たな課題に取り組む姿勢」である。また、新規性のある困難な課題に挑戦することやそのような経験も意味する。

「リフレクション」は、自分の行為の最中や後で振り返ることを意味する。行為を振り返り教訓を引き出したりや新しい知識やスキルを身に付けるために不可欠な要素である。また、他者からのフィードバックによる内省、行為や次章への本質的な問いかけや自分自身へのより深い内省もここに含まれる。

「エンジョイメント」は「やりがいや面白さを感じることで意欲が高まっている状態」「達成感や成長感を感じている状態」を意味する。

A・Bの二つの大学の合宿に参加した24名のアンケートを、この3つの観点で分析した。

4. 結果と考察

事前のアンケートと事後のアンケートを比べると事後アンケートの方が、記述量が多くなる傾向がみられた。A大学では、女子学生が多いためか「虫がいる」ことへの不安を

あげるものが多かった。B大学は、同じゼミに所属する3・4年生が参加したが、このうち4年生は昨年に続く2回目の参加であるため、活動の内容に対する期待も記述されていた。

Q1~Q4までの事後アンケートの記述を表にまとめた（次ページ参照）。なお、表中において「ストレッチメント」に関連した表現は赤、「エンジョイメント」に関する記述はオレンジ、「リフレクション」に関連する記述は青、参加者同士の関係性に関する記述は下線、そのほか着目した観点を太字にした。

目立つのは、「Q1,今のきもち」「Q2,印象に残ったこと」として「楽しかった」「達成感」という表現が多くみられたことである。

特にA大学は、参加者15名全員が「楽しい」「達成感」、「やり遂げた」といった表現をひとつ以上使っていた。これは、先に述べた経験から学ぶ3要素のうちのひとつ「エンジョイメント」に相当するもの（オレンジ色で表記）と考えられるが、この要素はA大学の参加者には非常に強く、またB大学の参加者の一部の記述に見ることが出来た。

次に、経験からの学びの要素のひとつ「リフレクション」である（表では青文字で表記）。「リフレクション」とは自分の行為の最中や後で振り返ることを意味する。参加者の記述を見てみると、「Q1,今のきもち」や「Q3,この合宿で学んだこと、感じたこと、気づいたこと」においては、A大学では「人との協力」「水と火の大切さ」といったキャンプ体験から直接学んだこととそこから普段の生活への反省の記述が目立った。環境的配慮行動に関連する記述もみられ環境教育としての要素も確認できた。また、「視野が広がった」という表現も2件あった。B大学では「自分を見つめなおすことが出来た」「自分の気持ちを再確認した」「自分の知らないことを学んでいく人生にしたいと考えが変わりました」といった自己への内省に関する記述が目立っていた。

野田恵 (2016.3)

| | Q1今のきもち | Q2印象に残ったこと | Q3学んだこと | Q4参加前と今の変化 |
|-----|--|--|---|---|
| A1 | 達成感!! 何事も自分たちでやってきたからこそ楽しかった思い出、辛かった思い出、学んだことがある! | 沢登り。想像をはるかに超えるものだった。 みんなで作ったから乗り越えられて、楽しむ ことが出来た。 | 普段の生活で当たり前なくなっていた時の生活の大変さ、大変だけど当たり前がなくなっても何とか生活できるということが分かった。 | やる前から無理かもしれない、できないだろうとは思わずとりあえずやってみようと思えるようになったかな?とあえず挑戦! |
| A2 | 達成感 今思えばあんな急な崖を沢登りを感想で来たなど。ある食材であんなおいしい料理が作れて学ぶことがたくさんありキャンプに来てよかったと満足感いっぱいです。かゆい!! 山をなめました | 沢登り。自炊も結構印象的でしたが一番は沢登りです。川遊びと聞いていた言ったらまさかの崖のぼり。 略無難だよ~と思っていた難所をクリア できてあざはあったものの無事に帰ってこれたのはすごいことだと思います。いろいろ学べました。 | チームワークの大切さ(今回のキャンプは大成功だと思っていて、チームワークがあったからだと思う) | 虫があまりこわくなくなった。視野が広がった。 |
| A3 | 大きく成長できたと思う。とにかく楽しかった。 | 火おこしが 大変だったけど楽しかった 。沢登りを 始めてやってみて、あんな がけにも上れるんだと思った。 | いろいろな人と協力することでできることがたくさんある。水、電気、ガスの大切さを感じた。チームワークの大切さをもっと感じられた。 | どんなところでも生活できそう だと思った。 虫なんか怖くなくなった 。ひとの協力があるからこそできることがある。 |
| A4 | 不安、恐怖、楽しさといういろいろな感情がわいた。やり切った感。 | 沢登り。お互いが助け合って平均したスピードで進むことが出来、皆無事にゴールで来た。 | 水の大切さ、人との接触 | メンタル、筋肉痛 |
| A5 | とても楽しかった。大変だったけど達成感もすごい。時間も結構ギリギリで行動だったので 充実感 もすごい。 | キャンプ中の夜のトイレが死ぬほど怖かった。 | 火と水の大切さ、仲間がいる 安心感 、当たり前が当たり前じゃないこと | ごはん、水、火、電気へのありがたみ。 ゼミの仲間との関係が深まった 気がする。 |
| A6 | 楽しかった。達成感 がすごいある。 | 風邪をひいた。 沢登りみたいなのはやはり苦手。みんなと協力して 生活したこと。 | 日常から離れた環境で生活して見れば、普段ととてもいい環境で生活しているなと思った。 | 始まる前は不安を抱えたいかと思っていたけど今はとても楽しかったと思えるしもう少しいたい。 |
| A7 | やり逃げたことの 達成感 | 火おこし、できなかったことが失敗を通して次に生かせることが出来た。沢登り、大変だったけど 最後までやり逃げたことに満足 したから。 | キャンプは一人でできない、 みんなの協力が必要 だと思った。 | キャンプは普段の日常生活の楽しさ気づかせてくれた。 |
| A8 | 楽しかったし、何となく 変えることがさびしい、また来たいと思った! | 初キャンプ の衝撃。川(沢登り、あんなに絶壁があるとは思わなかった。) | 感謝が何ごとにも大切なんだなあと実感。改めて、いつもの生活が当たり前ではないんだと思った。 | 虫がいることも自然だからと思えるようになった。自炊することでご飯もよりおいしいと思えた。 |
| A9 | 自然が好き、 楽しい 、帰りたいくない。 | 沢登り。川から直接水をくむこと。 | 自分が本当に自然体でいられると思いました。ひとのつながりや食べ物、文明へのありがたさを感じました。 | 嫌いなものも食べてみようと思えるようになった。ゼミの仲間をもっと好きになった。 |
| A10 | ありがたさ、不便さ、達成感、ワクワク、ドキドキ、不安、楽しさ、いろんな気持を味わった3日間とても充実していた。 | 少ない水で手を洗ったこと、小さなことを気にしてられないということ。でっかいカエル | どこでも生活できるなということ、自分の知らないことがまだまだ山ほどあふれているということ、もっと知りたい!とおもった。笑顔が一番大切! | いつも母に水を出しすぎ、クーラーつけっぱなし、電気をつけっぱなしと怒られても懲りなかったが、水道の出す量とか電気を大切にできると思う。 |
| A11 | 火おこしや沢登りや虫など いろいろ大変なことが多かった けど、それ以上に仲間だことが億で、すごく 自分自身が成長 できたと思えました。すごく 楽しい 合宿でした。 | 2日目の沢登りが すごく大変 で印象に残っています。あんな高いがけで命懸けで登った天然のウォータースライダーをしたら濡に打たれたり、 初めて経験すること が多かったし、 学んだり考えたりすることも多くてすごく楽しかった です。 | 良い意味で大ざっぱになったと感じました。虫がいてもさわがなくなりました。細かすぎず、適量か減速を見つけれようになった。 | |
| A12 | 帰りたいくない、もっと遊びたい、少し眠い。 | 沢登り。すごいきつかったけどその倍以上の 達成感 を感じた。 | スマホでなくても意外と 平気! | キャンプに対する考えや。寒そうだし大変そうないメージだったけど想像以上に楽しかったしずーっと笑えた。 |
| A13 | 思った以上にハードだったけど、とても 楽しい 毎日でした。 ゼミ生 の中が深まった。 | 沢登りの終わりが見えなくて精神的につらかった 。与えられた 食材で自炊 することが楽しかった。 | いただきましたと言う気持ち、すべてのことに感謝するということを学びました。 | 当たり前過ぎていたことに感謝できるようになった。同じゼミの仲間の大切さをより深く感じた。 |
| A14 | 変えるのが少し寂しい。 大変だった記憶よりも楽しかった記憶の方が残っている 。 | 沢登り。今回初めて話をした子も助けてくれたり一人ではないんだなと実感した。 | ひとりではできないことやできないと思っていたことも時間と努力をかければできると分かった。 | やればできるということが分かり、 物事に関する視野も広がった 。ひととの距離もちぎった。 |
| A15 | 疲れたこともすべてが楽しかった 。みんなでの3日間 過ごせてよかった 。 協力して何かをすることは難しい ことばかりだけど 本当に大事な こと。スタッフ、命など 全部に感謝 。 | 沢登り。薪割り難しかった、けどすっきりする。 | 火おこし、自炊、沢登りのコツ。夜はこわい。つながりは全部にある。 | 不安という物がなくてやるしかないということになった。 |
| B1 | 2泊3日、ゼミのみんなと共同作業をしてみて 不安 もたくさんありましたが、みんな で協力 することが出来てよかったです。3年生などの 仲の心配 もありましたが4年も3年もよい方向に向かっていることを確認できて安心しました。 | スタツさん とたくさん話 をして自分の考えやスタツさんの考えを共有できて 勉強 になりました。そして 重宝 ももらえたので自分の進みたい道を胸を張って歩きたいと思えるようになった。 | いつも生きるために生活していましたが生活ではなく暮らしが大事だと気が付いた。生活は人とかかわりたいへんさが少ないイメージですが、暮らしは人とつながらなければ生きていけないしとても大変です。そこに気づけたのは良かった。 | 始まる前は色々自分の考えをもっていて迷いがたくさんありましたが、今はポジティブな気持ちで自分の進みたい道に進みたいのです。 |
| B2 | 3日間問題なく合宿を終了できて一安心。 | 知らないことが多くあり活動でどうすればよいのか?という問いとこれで行けるのかという疑問を抱く場面が印象に残りました。(薪割りや火おこし) | 自分のやり方を改めさせてくれることが多くあった。 | 始まる前に知らなかったことをインプットして、活動でアウトプットしていくことで能動的受動的のメリハリが身についた。 |
| B3 | 自分を見つめなおすことが出来た。新しい私を発見できた。自分の気持ちを再確認できた。今は どんなことにもポジティブな気持ち を持っている。 | 薪入れをあんな小さな窯にどうやって入れるんだらう。謎、不思議! | 全員が仲良くな れてよかった。疑問を持ち続ける大切さ。 | 事前: どういうことをやるのか、結局3分間クッキング(全部を通してやらずに差し替え?)→今: 材取りの場所も分かって泰阜の山の風景も見れてよかった。全然3分クッキングじゃないよ! 楽しい 。暮らしを体験したなあ。 |
| B4 | 3日間すごく楽しかった 。今まで様々な自然プログラムを体験しましたが、 炭焼きは初めて で 楽し ぎました。 | 薪割り。たくさん割って楽しかったし、お風呂で使った分を返すという気持ちで薪割りができたのもよかった。 | 挑戦したい気持ち 。この 合宿では常に挑戦したいこと がたくさん 発見 できてよかったです。 | 始まる前は楽しい合宿になっただけであって思っていたが、終わってこれからは楽しいことだけでなくまだまだ自分の知らない(さんのことを学んで)人生にしたいと思え変わりました。 |
| B5 | 筋肉痛、でもいま薪割りたい。このメンバーでこのままここで暮らしたい。卒業したくない来年も合宿したいなあ。 | 生活の一環として薪割り炭焼きを行った事。こういった暮らしをした自分にとっても 楽しく考え させられる時間でした。 | 人は協力しなくては生きていけないなんて言うつもりはありませんが、協力した方が 楽しい! 楽、効率的、たのしい! | 暮らし、幸せについてもやがてかかっていた原因が分かったような気がします。 |
| B6 | 素直に楽しかったと思う合宿だった。みんなと一緒に来れてよかったし、自分を見直すきっかけの一つになったと思。 | ごはんづくり、暮らし。みんなと協力して やり逃げ したことと気づいた。 | 4年は 去年と比べて成長 している部分が多く、 今年もGW に来て 再実感 させられた。 | 去年は狩猟体験で泰阜村の1つの事業をGWを拠点に見たという印象。また嫌な思いをしている人を見てよくない印象を持っていたが、今回の体験を通じて良い意味でのんびりしてGWの良さに気づけた。 |
| B7 | 薪割り、火おこしなど体験することが出来たので やり切った 感がある。 | 風呂を うまく焚くことが出来るのか心配 だったけど うまく焚くことが出来たので喜び をおぼえた。 | 「生きる」を学ぶことが出来た。自分自身で生きていくことに精いっぱい担ったのは初めてで良い経験になりました。 | 薪割り火おこしなどできるか不安だったが問題なくできたので、サークルの活動でも火おこしを 自分でやってみようかなと自覚 ができました。 |
| B8 | 3日間で自分の体験したことないものを体験しました一つ成長できた。3日間楽しく充実していた。 | 自分で考え行動を起こす時に「それで本当に大丈夫なの?」と 考えることを促す ことが多いのが印象に残りました。 | 集団生活の中で一人一人の意見をないがしろにしないことが良いと感じた。皆と作業するときに役割分担をする子+土責任感が生まれ投げ出さなくなると感じた。自分で行動することで子どもたちが自分から興味を持ったことを実行していることに気が付いた。考えながら教えてもらう重要さ | 先輩との距離が近くなったと感じた |
| B9 | 心も体も満タン!とても心地よい疲れ、幸せ。 | 皆のごはんづくりの クオリティ があがった。みんなとの会話やふざけ合ったことが思い出される。 | みんなで暮らしを 作り上げる ことの楽しさ、大変さ、大切さや自然と共に暮らすことのやりがいや苦労、知恵を学んだ。 いろいろな人がいてともに暮らす中で最低限守るべきこと、お互いを受け入れること 。考えて発信して行動すること。 | * *と仲良くなった。後輩を育てようという意識は4年にあると感じられた。3年生との距離が縮まった。人間関係の難しさ、心の壁の取り方、一つ一つの発言や行動の大切さを考えさせられた。 |

A15 のような活動に関連したリフレクションもみられた。

また、リフレクションという要素は他者からのフィードバックも含まれる。この点については、スタッフとのやり取りについての記述が1件あったが、直接他者とのやり取りについて具体的に記述するようなものはなかった。ただ、A 大学 B 大学ともに参加者同士の関係がより親密になったり、距離感が縮まったという記述は多くみられた(表の下線部分)。ここから、合宿中に、参加者がお互いのやり取りから学び合ったかどうかについては分からないが、関係性を構築することはできたとはいえるだろう。参加者はいずれもゼミ生で継続して関わり合うことが予想されるので、合宿中に構築された関係によって今後、お互いが関わり合いながら学びあい成長することも期待される。

高い目標や新たな課題、困難な課題への挑戦といった「ストレッチ」経験に関連する記述(表中では赤文字で表記)として以下のようなものがみられた。A 大学では、川遊びと聞いてイメージしていた内容からは、沢登りはるかにハードな沢登りを行っている。アンケートの記述から、それが学生たちにとって、想像を超えたできそもないようなことであり、また「初めて」取り組むことであり、実際にすごく大変でできなかったことが推察できる。A 大学の参加者は、このような困難な課題に全員が協力し合いながら乗り越えたことが、「達成感」「楽しかった」という記述につながっていると考えられる。

いっぽう、B 大学では初めての炭焼きにうまくできるか不安であったという記述は見られるものの A 大学ほどの困難な課題に挑戦したという認識をうかがわせる記述は見られない。しかし、B 大学参加者の9名中5名は事後アンケートの「Q5.合宿の改善点や意見」という項目に「時計のない合宿をやりたい」「寝るときはコテージではなくキャンプで寝

たい」などといった、合宿の内容を深める活動やより不便で困難なものに挑戦したいという記述がなされていた。つまり、新しい挑戦への意欲がはぐくまれたと考えられる。これは今後の経験を通じた学びに生かせるストレッチメントの土台を形成したと考えられる。

4. おわりに

以上、松尾の経験からの学びが持つ3つの要素を手がかりに、グリーンウッドのプログラム参加者の記述を読み解いてみた。その結果、A 大学、B 大学は活動の内容は異なっていたけれど経験から学ぶ3つの要素のどれもが含まれていることが確認できた。

A 大学の記述からは、沢登りというアウトドア体験に挑戦し、より達成感や充実感を強めていた様子が見取れた。B 大学は、自分の感情や価値観、これからの方向性などについて深く考える内省の記述がより強くみられた。また、さらに挑戦したいという意欲的な記述が、B 大学にはみられた。つまり、A 大学の「挑戦するアウトドア・プログラム」ではエンジョイメントの要素が、B 大学の「里山の暮らしを体験するプログラム」ではリフレクションの要素がより強くみられたといえる。このような両大学の相違は、プログラムデザインの違いによるものが大きいと考えられる。自然体験からの学びといっても、活動内容によってその学びの要素が異なることが確認できた。

平野ら(2003)は、小中学生を対象とした長期キャンプの研究から「宿舎泊よりテント泊、施設提供より自炊、おだやかな天候より厳しい天候」「克服的要素を含んだ活動」が「生きる力」の育成期効果的であると結論している。

本研究で扱った事例に関して言えば、克服的要素がより多かったのは A 大学であったが、克服的要素の少ないプログラム B 大学参加者に、内省や挑戦への意欲などがみられた。自

分の悩みに「もやがかかっていた原因が分かった (A5-Q4)」「自分の知らないことを学んでいきたいと考えが変わった (A4-Q4)」といった自己への内省は学童期にはみられない，成熟しつつある若者にとって有意義な学びではないだろうか．青年期の経験学習においても克服的要素は達成感や充実感を与えるが，重要な要素は克服的要素だけではないことが示唆された．

参考文献

阿部治，2012，「なぜ環境教育を学ぶのか」，日本環境教育学会編『環境教育』，教育出版，東京，1-10

松尾睦，2012，『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』，ダイヤモンド社，東京，pp220

シャラン・B・メリアム編，立田慶裕他訳，2010，『成人学習理論の新しい動向 脳や身体による学習からグローバリゼーションまで』，福村出版，東京，pp149

橘直隆・平野吉直・関根章文，2003，「長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響」，『野外教育研究』，16-2:1-12